

育てよう 鏡野のよい子シリーズ



「紫黒米づくりを通して」

一年前の春、五年生を担任することになりました。子どもたちとの出会いの場で、「鏡野町の良いところは？」とたずねてみました。子どもたちからの返事は第一声、「人が優しい！」

もちろん、豊かな自然や特産物などの声も上がりましたが、人の優しさを感じていることに驚いたことを覚えています。子どもたちの言う「人」って誰のことだろう？今はわかったような気がします。

南小学校の五年生は一年を通して紫黒米づくりを学びます。もみまきから稲刈りまで、泉会の方々が先生になってくださり、教えてくださいます。社会科の教科書に米作りの行程や写真は載っていますが、上手に育てるコツや気を付けること、道具の安全な使い方など体験を伴う学習に子どもたちは目を輝かせ取り組みました。

稲刈りでは、もみ一つ一つを無駄にしないようにと稲を刈って運んだ後も地面を探す子どもたちの姿がありました。食べ物を作る苦労を泉会の方々の姿から感じ取っているのだと思います。

さて、自分たちで育てた紫黒米をどうしようか、子どもたちと相談です。「紫黒米の良さを小さい子からお年寄りまでみんなに広めたい」「お店に置いてもらいたい」「レシピを考えてレシピ本を配りたい」「広告動画を作って地域の人に見てもらいたい」「アイデアはどんどん出てきます。嬉しい反面、どうやって実現させたらよいものか悩みました。子どもたちは地域にあるお店や幼稚園、福祉施設をよく知っていて、お願いしたいという思いを持っていました。

子どもたちからお願いをする前に、私たち教員から事前に承諾をいただけないか連絡をさせていただきました。コロナ禍で子どもたちが直接伺うことはできませんでしたが、地域の方々には子どもたちの提案を快く引き受けてくださるだけでなく、子どもたちが活躍できる方法を一緒に考えてくださいました。夢広場で実際に販売させていただいたり、ケーブルテレビで宣伝を放送してくださったり、福祉施設の方々には子どもたち手作りのレシピ本と動画をお届けすることもできました。

気付けば紫黒米づくりは「社会科」の学習でなく、「社会」の学習に広がっていました。電話での話し方、手紙の書き方、お礼の伝え方。「人」相手だから、そして実際に体験したからこそできる貴重な経験です。子どもたちの言葉。

「人が優しい！」
子どもたちの成長を願い、快く協力してくださる地域の方がたくさんおられる鏡野町を上手く表現していると感じます。

地域の農産物作りのプロフェッショナルである泉会の方々をはじめ、お世話になった皆様を子どもたちは「かっこいい」と感じています。引き続き地域の方々のお力をお借りしながら、「大人って楽しそう」「大人って頼もしい」「鏡野町が好き」と思える環境や場づくりをしていけたらと思っています。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会

南小学校 畦田絵里子

のびのびひろば

自然を生かした遊び

満開の桜で新年度がスタートし、幼稚園周辺の菜の花やたんぽぽ、よもぎ等の草花摘みを楽しみました。隣の竹林から柵の下を潜って園庭に生えるタケノコを掘ることも毎年の恒例の活動になっています。また生き物が好きな子どもたちは、花壇や菜園にいるダンゴムシや青虫をとったり、虫取り網をもって散歩に行き、捕まえてきた生き物を図鑑で調べたり、エサをあげたりして飼育観察しています。季節ごとの自然を全身で感じながら活動することが大好きな子どもたちです。

大きなかつむり…



よもぎを摘んでお団子をつくったよ♪



あおむしがいたよ！



花びらで色水をつくるよ♪



(郷幼稚園)

カエル捕まえた!!



タケノコの根っこはどこかな？

